

目次



助産師外来をはじめました	井上 京子	1
ボランティア活動紹介 5 スマイルパンプキン	小橋 千晶	2
満足度に関する「アンケート調査」結果		3
センターからのお知らせ		4
なでしこ♡タイムのご案内	前田 葉子	4



助産師外来をはじめました



1950年代までお産の多くは自宅で行われ、それを地域の助産師が担っていました。現在では、98.8%の方が、病院や診療所でお産をしています。センターの助産師外来では、医療体制の整った環境で、自然なお産がしたい、自分らしいお産がしたいという妊婦さんの希望に応え、妊婦さんが主体となった家庭的なお産を行っています。

助産師外来とは、助産師が中心となって妊婦健診や保健指導を行う外来です。妊婦さんが妊娠やお産・産褥期に生じる心と体の変化を理解し、満足できるマタニティライフを送れるように助産師が援助していきます。完全予約制ですので待ち時間なく、リラックスした雰囲気ですぐりと助産師に困ったことや悩みなどを相談できます。妊婦健診やお産の時には、ご主人やご家族も同伴して頂けます。

対象： 助産師外来を希望している妊娠 15 週以降の方で、正常な妊娠経過をたどり、外来主治医の許可のある方です。

日時： 毎週木曜日9時～17時(予約制)。おひとり30分～60分くらいの時間をもうけています。

担当： 助産師 5 名が担当しています。

内容： 妊婦健診、妊娠・分娩・育児に関しての心と体の準備や心配や不安なことを解消するためのお手伝いをします。

バースプラン ご家族で妊娠やお産・育児について考えるお手伝いをします。新しい家族を迎える準備をしましょう。

分娩： 担当の助産師ができるだけ立ち合わせていただきます。

フリースタイル分娩 お母さんと赤ちゃんの安全を考えたながら、お産の進行にあわせて、過ごしやすい体勢を工夫していきます。妊娠中から体作りが必要となりますので、妊娠中にできることをアドバイスします。

医師の診察： 16 週からお産まで、超音波や検査のために医師の診察が3回あります。妊娠経過で医師の診察が必要なときは、助産師外来健診時に医師の診察を受けていただきます。また、ご希望されれば、いつでも医師の診察に変わることができます。

助産師外来についてのご相談は、母性外来で受け付けておりますので、気軽にお尋ね下さい。

柔らかい明かりと好きな音楽を聞きながら、家庭的な雰囲気ですぐの時期を過ごすことができます。



陣痛室



7月28日に助産師外来を受診していた方のお産がありました。



うえの子と分娩後、添い寝をしました。うえの子は、赤ちゃんに声をかけ触れていました。赤ちゃんを自然に受け入れているようです。

(副看護部長 井上 京子)

母子医療センターでのボランティア活動紹介5

スマイルパンプキン



私たちスマイルパンプキンは、母子医療センター4階西棟で長い間入院を繰り返し、年の差があるものの、知り合い、そして残念ながら4人の子どもが共に他界した仲間同士ともいえる母親の集まりです。

私たちの子どもが入院している頃は、外からの情報がなかなか入手しにくく、不自由なことがいろいろあっても改善するエネルギーまで無いのが現実でした。そんな中、入院中に少しでも自分たちの手で出来ることからしていかなければ・・・と思い、まずは子どもたちと共に楽しい時間を過ごせるような場を設けることになったのが始まりです。初めは一人から活動しました。その後、お互いの子どもが他界し、3人、4人と入って活動し今日に至っています。この点が、他のボランティアさんたちとは大きく違う点だと思います。

活動内容は、月2回、安静時間後15:00～16:00頃までで、2回のうち1回は「お誕生日会」

として、その月のお誕生日のお友達を紹介し、みんなで歌を歌い、担当の看護師さんや医師からのメッセージ入りのお手製カードと折り紙で作ったクス玉をプレゼントします。その後、紙芝居を楽しんだり、簡単な制作を一緒にしています。

もう1回は「制作」です。プラ板でキーホルダー制作や小麦粉粘土、絵の具遊び、お雛様やこいのぼり作り etc....。季節感を少しでも味わえればいいなと思っています。そして、子どもも親も楽しめるものと考えています。部屋から出られないお友達の分も、材料を抱えて部屋に戻るお子さん、親御さんもいらっしゃり、うれしく思います。

他には、夏祭りやお楽しみ会、コンサートや運動会もあり



ます。夏祭りは、スーパーボールすくいやプラスチックの金魚すくい、ヨーヨーつり、わなげやあてものなどを行います。七夕

の頃は、恒例になってきた「こんぺいとう」のコンサートです。部屋から出られない子どもたちにも「生の音楽」と思い、始めました。今では1階ホールでの演奏ですが、4階西棟の部屋から出られない子どもたちにも聴かせてあげたいと思っています。そして、お楽しみ会はお正月の月に、くじ引きやわなげ、あてものなど少しでもお祭り気分を味わってもらえればという企画をしています。

私たちはボランティアをしているという気持ちは正直ありません。むしろ「生きがい」になっている感じで、「行けない月があると寂しい」とさえ感じるくらいです。子どもが他界した頃は、病院に足を踏み入れるのは勇気が要り、辛い時もありました。でも、お互いが顔を合わすことで、話すことで、そして病棟の子どもたちの喜ぶ顔を見ることで、私たちの心の中に暖かいものを埋めていってくれているのだと思います。

私たちは、私たちの経験した中でこそ生かせることもあり、今、頑張っておられる親御さんや子どもと共に、たくさんの何かを理解できるのではないかと思います。そして私たちが母子医療センターに足を運び続けられるのは、病棟の子どもたちやお母さんたちの笑顔に、いっぱい幸せと元気をもたらしているからなのです。

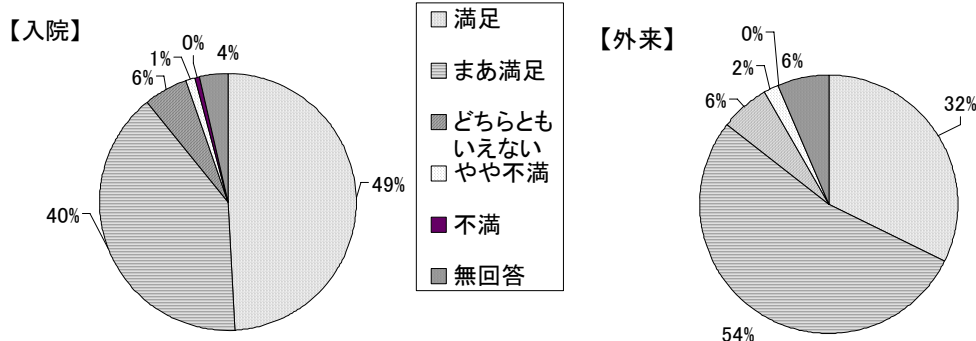
(スマイルパンプキン 小橋 千晶)



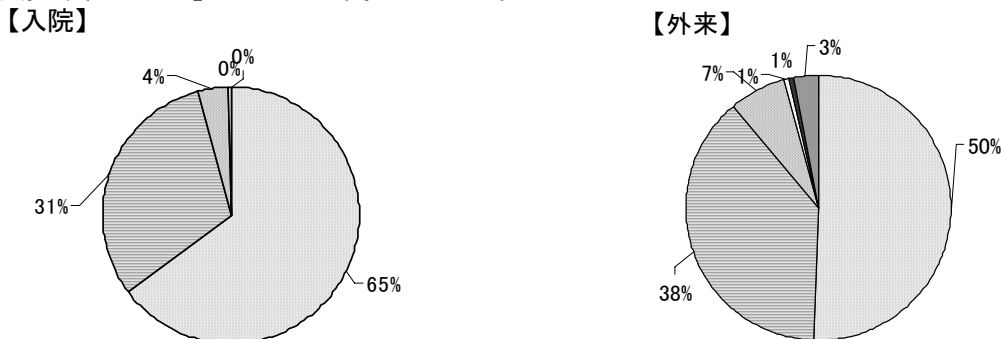
入院・外来患者さんの満足度に関する「アンケート調査」結果

2月に入院患者さん270名、外来患者さん510名の方に「アンケート調査」にご協力頂きました。ありがとうございました。その結果の概要をお知らせいたします。

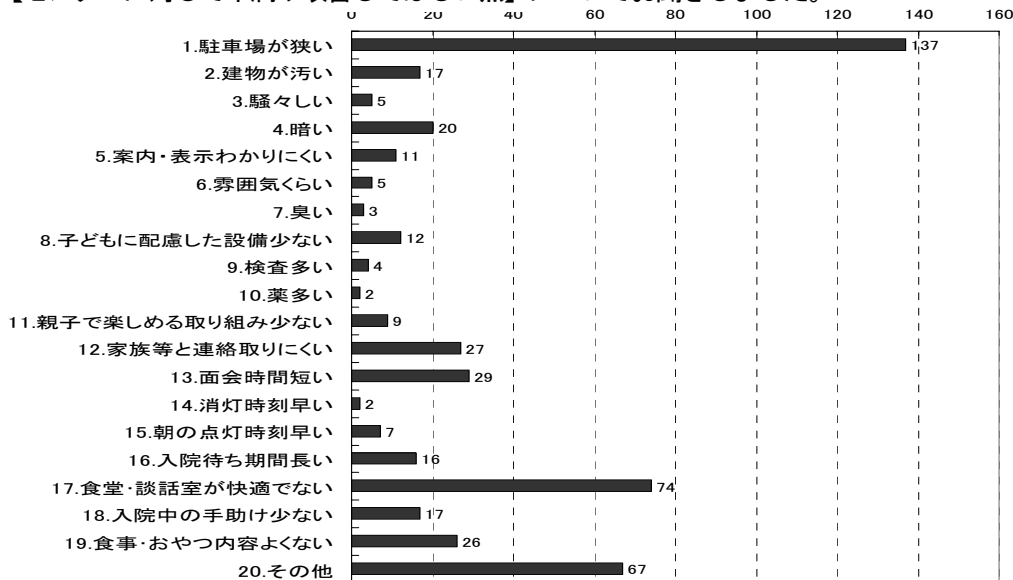
1. 【総合的な満足度】をお聞きました。



2. 【診療の質・レベル】についてお聞きました。



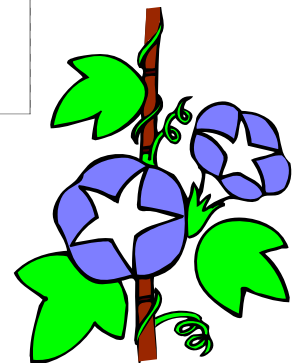
3. 【センターに対して不満や改善してほしい点】についてお聞きました。



4. 最近、改善させて頂いた中からいくつかをご報告いたします。

- ◆ 防犯面につきまして、病棟にオートロックを設置しました。
- ◆ 小児外来アトリウムや5階病棟、母性棟に壁画を設置しました。
- ◆ 小児外来診察室の扉を引き戸にしました。
- ◆ 病院入り口にアーチ型の門を設置しました。
- ◆ 小児外来アトリウムから薬局までの床面の貼り替えをしました。

今後も皆様のご意見を参考に、より良い病院を目指して努力していきたくております。





センターからのお知らせ

なでしこ♡タイム (母子医療センター糖尿病患者友の会)

のご案内



なでしこ♡タイムは、糖尿病1型・2型の枠を超えて一緒に集まり情報交換をしあったり悩みを相談しあったりすることで会員同志の親睦を図るとともに、糖尿病に関する知識を、楽しみながら身に付けていくことを目的として2005年1月に設立されました。

会員は糖尿病患者様ならびにそのご家族を中心とし、和栗雅子医師(母性内科)、助産師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師で構成されています。

1年に4回(1月、4月、7月、10月)母子医療センター1階の母性指導室で13時から16時まで開催しています。最近一年間の活動内容は

2005年7月

- ①インスリンのお話し Part I (薬剤師)
- ②インスリン(ペン型・ポンプ型)注射器について (和栗医師)
- ③1個16キロカロリーのゼリーを試食しながらの患者交流会

2005年10月

- ①糖尿病の検査のお話し(臨床検査技師)
- ②調理実習 大根もちとトト寒天(栄養士)
- ③大根もちとトト寒天を試食しながらの患者交流会

2006年1月

- ①マタニティーヨガ(助産師)
- ②運動のお話し(健康運動指導士)
- ③調理実習 ジャーケーキ(栄養士)
- ④ジャーケーキを試食しながらの患者交流会

2006年4月

- ①シックデイクイズ(和栗医師)
- ②調理実習 桜ゼリーとヘルシーウインター(栄養士)
- ③桜ゼリーとヘルシーウインターを試食しながらの患者交流会

2006年7月

- ①妊娠と糖尿病と栄養のお話し(栄養士)
- ②インスリンのお話し Part II (薬剤師)
- ③加リー100のケーキを試食しながらの患者交流会

今回は10月に開催する予定です。

これまでは主に母性の患者様が参加されていましたが、小児内科に通院・入院中の糖尿病患者様およびそのご家族の方にも、気軽に参加していただけますので、参加ご希望の方は、母子医療センター栄養管理室のなでしこ♡タイム事務局までお申し込みください。お待ちしております。

(薬剤師 前田 葉子)



当センターでは手話通訳者を専任配置しています

- 聴覚障害を伴う患者さんに、安心して医療を受けていただけるよう、手話通訳サービスを行っています。
- ご利用希望の方は、総合受付(1階ロビー)又は医療相談室(1階)にお申し込みください。
- 配置時間は、月曜日～金曜日の午前9時～午後3時45分です。
- 患者さんの費用負担はありません。

府民公開講座のお知らせ

テーマ「小児神経・筋疾患」を考える
一筋ジストロフィー・ミトコンドリア脳筋症・

重症筋無力症・末梢神経障害一

羽曳野養護学校との共催で公開講座を開催します。

1. 日時 平成18年9月9日(土)午後2時から
2. 場所 母子医療センター研究所大会議室
3. 講師 小児神経科長 鈴木 保宏

「小児の神経・筋疾患」

メディカルソーシャルワーカー 香西 摩矢子

「在宅に向けての援助を通して」

羽曳野養護学校教諭 岡本 華子

「学校生活を通して見えてきたもの」

4. 申込方法 住所・氏名を書いてハガキ又はFAX
センター1階「総合案内」でも受付をしています。